

令和元年度 学校評価

クラーク記念国際高等学校

1 重点目標

- (1) 基礎学力の確実な定着を図り、生徒の学習意欲を育む。
- (2) 生徒一人ひとりの進路希望の実現を目指す。
- (3) 生徒一人ひとりの気持ちに寄り添う決め細やかな生活指導を目指す。
- (4) 関係法令やガイドラインについて、連携施設との共通理解を進める。

2 自己評価

評価項目	自己評価
学習指導	<p>○高校の基礎学力養成について、生徒の苦手克服と学習進度の確保に取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none">・英語、数学、国語の「アチーブメントテスト」を年間3回実施した。新たな取り組みとして今年度の第3回はテスト範囲を1年間の学習範囲とし、かつ各々3段階のレベル別で実施した。テスト後に関しては、前年度同様に苦手単元復習用にWEB教材に紐付けした帳票を生徒に返却し、長期休業を利用して克服ができるように努めた。その結果、学習進度に関する確保できるようになってきたと考える。 <p>○進学に向けた学力養成について、C段階以上の割合が増加した。</p> <ul style="list-style-type: none">・「ベネッセ基礎力診断テスト」の結果、2年次生（平成30年度入学生）のC段階（大学推薦入試を活用して合格できる可能性あり）以上の割合が入学時よりも増加した。また前年度の2年次生との同比較においても、その割合が増加した。基礎学力の養成に力点を置いた指導の効果が徐々に表れてきたと考える。 <p>○義務教育範囲の学び直しについての取り組み</p> <ul style="list-style-type: none">・入学前教材「First Step」を「基礎学力オールチェック」教材と連動させたこと、また、単元ごとの解説動画をWEBで視聴できるようにした学習環境の整備・促進の結果と考える。
学習指導における改善方策	<ul style="list-style-type: none">◇「高校生のための学びの基礎診断（英・数・国）」導入の経緯に鑑み、基礎学力の定着を確実に行う。◇WEB教材を有効活用するため、教職員一人ひとりの意識改革を促す取組を進める。

評価項目	自己評価
進路指導	<p>○3年次生の進路満足度が上昇した。 週5日登校する3年生の「進路先満足度」及び「進路指導満足度」を調査した結果、「満足」の割合がそれぞれ 85%、80%となり、前年と比べ進路先満足度は同じだが、「進路指導満足度」は4%増加した。 同様に、週に数日登校するコース生の調査結果も「進路先満足度」は85%を上回る好位置で安定し、「進路指導満足度」が向上し、昨年70%台から80%台へと上昇した。</p> <p>○進路指導担当の地区代表者が合同で「進路指導マニュアル」を作成し、それを全国の教員に配布した。 その中には1年担任用、2年担任用、3年生担任用、週に数日登校するコースの担任用、進路担当用など各役割ごとの年間スケジュールに応じた進路に関する業務内容の説明やアドバイスを記入した。また、希望者にはこのマニュアルを使っての研修も行った。 このことで、3年間に渡った進路指導内容の共通理解や経験の浅い教員に対する助けになり、学校全体の進路指導力充実に寄与した。</p>
進路指導における改善方策	<p>◇次年度の3年生は大学入試改革元年に当たるので、大学入学共通テストや新しい大学選抜制度に対し、生徒保護者に適切に情報提供し対処を行う。</p> <p>◇登校日数の少ない生徒にも、進路相談や進路の説明会の機会をより一層増やす。</p> <p>◇学びを深めたり、卒業後の進路に生かすため、ポートフォリオを充実させる。</p>
生活指導	<p>○出席率を高める取り組み（欠席・遅刻率の減少）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が意欲をもって登校できる状況を生徒意識調査アンケートで調査し、よりよい学校環境の改善に取り組んだ。 ・また同時に保護者のアンケートも実施し、保護者のニーズや思いもくみ取り、生徒・保護者、両方のモチベーションを高めるよう努めた。 <p>○退学率を軽減する取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人の気持ちに寄り添うきめ細やかな生徒対応を目指すため地区毎の課題やニーズを捉えた研修をその地区に研修講師を派遣し、教職員の力量を高める研修を実施した。（全5回） ・退学を考える生徒の支援をキャンパス職員だけで対応するのではなく、各キャンパスの教職員をサポートする生徒支援対策委員会を設置した。公立高校で校長職の経験がある教員や学校心理士の資格をもつ教員で構成し、生徒の支援方法のアドバイスや直接教職員をサポートすることで退学者の軽減を目指した。 ・本年度もいじめアンケートを2回実施し、いじめの芽を早期に摘み取り、いじめの解消に努めた。
生活指導における改善策	<p>◇自然災害等で緊急に生徒・保護者の安否や所在を確認できるシステムの構築と運用（WEB安否確認システムの構築）</p> <p>◇生徒支援対策委員会の更なる活動範囲の拡大</p> <p>◇生徒対応で困っている各キャンパスの相談を早期に吸い上げる制度の構築</p> <p>◇各地区の生徒指導状況を把握できる生徒指導プロジェクトチームの発足</p>

評価項目	自己評価
組織運営	<p>○教職員研修を計画通り実施した。 危機管理、授業力アップ及び学習心理支援カウンセラーの資格取得や 6 部会（教務、進路、生活指導、国際推進、広報、総務）ごとの研修などを年間計画に沿って実施した。また加えて、入職3年目研修を実施し、若手教職員が抱えている課題や問題の解決に繋げた。</p> <p>○連携校との連絡会議を年2 回実施した。 全国 4 会場（首都圏、中部東海、近畿・中四国、九州）で連携校との研修及び情報交換を行った。また、連携施設を年間通して2 回訪問し、「高等学校通信教育の質の確保・向上のためのガイドライン」の理解を深めるとともに課題及び改善策について、協議を行った。</p> <p>○第三者評価を受審した。 「通信制高等学校評価研究会（現NPO法人全国通信制高等学校評価機構）」による第三者評価を受審し、同会が定める評価項目（「学校運営」「教育課程」「生徒支援」）の基準に適合しており、登録認定第1号として認められた。</p>
組織運営における改善策	<p>◇「高等学校通信教育の質の確保・向上のためのガイドライン」に基づき、連携施設が自己点検に取り組めるシステムを確立する。 連携施設における課題解決に向けた支援を強化する。</p> <p>◇各キャンパスにおける OJT の充実を目指し、評価を実施する。</p> <p>◇授業力研修をアクティブラーニングや ICT 教育及びコーチングを加味した内容に改めていく。</p>